

ぼくらはたけの子

10周年記念誌

NPO 法人青空保育たけの子



子どもたちが自然の中で豊かに
遊び活動し、人として大切な五感
を磨き、生きる力を育み、その子
らしく成長していくことを見守り、
その子どもたちを取り巻く大人も
子どもと共に成長する

ぼくらはたけの子

作詞：たけの子と平瀬由季奈
作曲：平瀬由季奈

ぼくらはたけの子
げんきなたけの子
なんだってじぶんでできるんだ

じぶんのあたまを いっぱいひねって
じぶんのきもちを しっかりいって
じぶんでなんでも できるんだ

あめがふつても へっちゃらさ
にじはぼくらのうしろから
ドシンドシンと ついてくる

ぼくらはたけの子
げんきなたけの子
なんだってじぶんで できるんだ

ぼくらはたけの子
げんきなたけの子
なんだってじぶんで できるんだ
ヤー！



青空の下の自由なたけの子

作詞：たけの子と平瀬由季奈
作曲：平瀬由季奈

春はカエルをおいかけて

田植え泥んこ ドロンドロン

はじめはこわかった虫だって

今はへっちゃら 友だちさ

夏はキャンプで魚つり

つった魚は最高だ

夜のテントのおとまりは

ワクワクドキドキ スリルあり

秋はみんなで稲刈りだ

鎌でいっきにザックザク

大きな大根ひっこぬき

あらって干せばたくあんだ

冬はやっぱり雪遊び

そりですべってシュルシュルン

かまくら作ってほっこりだ

戸塚山も光ってる

それ！

それがたけの子 元気なたけの子

青空の下の自由なたけの子



青空保育たけの子と歩んで

NPO 法人青空保育たけの子 代表理事 辺見 妙子



2009年4月に産声をあげた青空保育たけの子は、今年で10周年を迎えました。創立当初、未来に胸を膨らませて仲間と語り合ったあのころ、いったい誰が10年後の今の姿を想像できたでしょうか。震災による原発事故、移動保育開始、週末保養、法人化、冒険遊び場作り、活動地の移転、認可外保育施設届出、交流広場、民泊、カフェ…。その間一貫して子どもと共に成長することを目的に活動を行ってきました。どんなに理不尽な思いをしても、いつも誰かが助けの手を差し伸べてくれる、そう、わたしはまるでわらしべ長者のように、人と出会い、人との繋がりから次々と宝物をいただけてきたのです。振り返るとひとりひとりの方に感謝しかありません。様々な問題を投げかけてくれた方々でさえも、それがあったからこそ、今のたけの子があると言えるからです。

さなぎ期

そもそもわたしは2008年10月まで保育士資格さえ持っていませんでした。2002年福島コダアイ合唱団に入団し音楽監督の降矢美彌子氏に出会ったことがきっかけで、幼児教育に関わりたいと思い、保育士としての勉強を始めた2007年3月、合唱団は神奈川県藤沢市で降矢氏の友人福永雪子氏が代表を務める幼児グループつくしんぼ（『泥んこで風とあそび街を歩く—屋根のない「つくしんぼ」保育の日々』）主催の演奏会に呼んでいただきました。そのことがきっかけで、わたしは初めて園舎のない保育があるということを知りました。「森のようちえん」も「森のムツレ」も知らないころに、何物にもとられない保育形態に出会えたことは幸運だったと思います。

黎明期

2008年11月から福島市の自宅を開放して始めた青空保育たけの子のプレ保育は、2009年3月終了時には11組ほどが集まり、4月からの正式な保育開始へ向け順調な滑り出しを予感させるものでした。しかし、実際に蓋を開けてみると、入園者はたったひとり。わたし達は当初から保育料をいただいて、小さいながらもプロとしてやっていこうと決めていたので、あっという間に経営難に陥ってしまったわけです。それでも、創業当初の7人の仲間たちは、わずかな謝礼を快諾してくれ、支えてくれました。

そして、その後、他園から転園してきた年長女兒や、保育者のお子さんや親子参加のお子さんと共に、常時4~5人の子ども達と関わりながら1年目を過ごしました。何もかも手探りでしたが、本当に楽しい日々でした。一番最初に近所の福島県青少年会館に子どもたちと歩いて行った時、「はやくあそぶとこいこう」と園児が言ったことは忘れられません。わたしは、子どもは外で遊ぶのが好きだから、外へ連れ出しさえすれば喜ぶと思っていたのです。



が違っていたのです。しかし、ほどなくして子どもたちは「なにもない」ことに慣れていき、創造と想像の力で遊びを作り出していきました。木の枝1本が魔法の箒になり、その魔法の箒にまたがって、時々給油して遊んだり、セイタカアワダチソウはなぜあんなに高く伸びるのに倒れないのだろうかなど、自然の中で子ども達の想像力や探求心は深まっていきました。

1年目の卒園式は信夫山でした。わたしたちのフィールドは、近所のいくつかの公園、福島市蓬莱町の里山(路線バスで移動)、渡利の小鳥の森、そして信夫山でした。その信夫山に住む、今は亡き今井幸郎さんがわたしたちの活動を新聞で読んでご自宅を開放してくださいました。現在その卒園式が行われた信夫山第二展望台は、放射性物質の一時保管場所になっていて、フレコンパックが人目にはつかないようにひっそりと、しかし大量に置かれています。

震災の年

2011年3月11日午後2時ごろ、わたし達はいつものように福島市渡利の小鳥の森での活動を終え、解散しました。その後わたしは春のお泊り会の宿泊費用を支払うため、福島市高湯温泉にあるこぶし荘に向かって車を走らせていました。午後2時46分、突然車が揺れ始め、危険を感じ停車させ辺りを見回すと、近くの家窓ガラスは大きく揺れ、電信柱が今にも倒れそうで、一瞬死を覚悟したほどです。それでも、そのまま車を走らせてこぶし荘に着くと、ちょうど高波が押し寄せている様子をテレビで放映しているところでした。ただ事ではないことが起きている、わたしはそう感じました。帰りの車の中で聞いたラジオではアナウンサーの方が「15メートルの津波が起きています」と戸惑いながら放送していたのを覚えています。

「東日本大震災」と名付けられたこの地震は、死者1万5897人、不明者2533人(2019年3月7日現在)もの犠牲者を出すこととなったのです。地震の翌日、園児たちの安否確認をし、電話がつかないところへは直接家を訪ねて全員無事であることが確認できました。福島市は地震による直接の被害よりもその後の原発事故由来の放射能によって長期的な被害に合い、今もその苦しみは続いています。

たけの子の各家庭は、一時的にしろ長期的にしろ、3月末までには全員が県外へ避難して行きました。わたしはその間、広域避難所になっていた場所に我が家の飼い犬も連れて遊びに行き、読み聞かせを行ったりしていました。じっとしてられなかったのだと思います。

新学期が始まりましたが、園児がいなくて開店休業状態。そんな中でもスタッフは集まり、放射能についての情報交換を行っていました。

4月16日からわたしは福島県あづま総合体育館で青空保育たけの子の名前で炊き出しを始めました。資金はわたしの呼びかけに答えてくださった「船と翼の会ふくしま」が提供してくださり、800人分のおかず作りは、当初友人知人20名ほどが入替わり立ち替わり手伝ってくれました。その後、炊き出しを継続していくうちに避難所の方々自らが手伝いにかけてくれるようになりました。実はその中には現スタッフの志賀さんがいて、「何か手伝えることはありませんか」と声をかけてくれたのです。縁とは不思議なものです。

5月9日からは避難先から一時帰宅してきた園児の家庭からのたつての願いで、福島で



の保育を再開しました。福島市内でも西の方は比較的放射線量が低いと思って高湯のスカイランドに出かけたのですが、毎時0.6マイクロシーベルト(放射線管理区域と同じレベル)もあり、本当にもう福島には安心して遊べるところはないのだなど実感してしまいました。

6月2日からは「絆」プロジェクト託児チームの全面協力のもと、kizuna託児ルームたけの子を辺見宅を開放しオープンしました。このプロジェクトは9月まで継続させていただきました。

5月1日には「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」(略名:子ども福島ネット)が子どもを持つ親たちが中心になって立ち上がり、子ども達を放射能から守るために活動を始めました。わたしは当初、知識共有班(後の情報共有班)の世話人になりました。この子ども福島ネットの当時の事務方から、米沢市六郷町の農村文化研究所所有の廃園になった園(広井郷幼稚園)を見つけてもらい、農村文化研究所の遠藤理事長のご厚意によりそこをお借りすることになり、10月から福島からの移動保育を開始することができました。ここでも人と人との繋がりから不思議なご縁があったのです。なぜ、4月からではなく、10月から始めたのか。それは、幼児期の半年は非常に大切な時間の積み重ねであり、一日一日を大切に過ごしてほしいというわたしの想いからです。当初は、福島から定期的に連れていく児童はおらず、米沢市に避難している児童が中心のスタートでした。

創立当初から続いている入園式は形を変え時期を変えながらも、毎年続き、運動会と発表会が合体したような「たけの子まつり」は毎年続き、今年で11回目を迎えることができました。10周年を迎えることができたひとつの要因なのだろうと思っています。

そしてこれからも、たけの子は続く

様々な困難があるにも関わらず、いいえ、たくさん、困難があったからこそ、少しでもそれを解決しようと活動を続けてきた結果が今の青空保育たけの子です。

2015年4月から、現在の米沢市上新田の手塚隆氏所有の活動場所に移ったのですが、これも不思議なご縁の繋がりてたどり着くことができた場所です。広々とした敷地の中を自由に駆け回る子どもたちを見ていると、まるでここに最初からあったような気さえしてきます。

2011年10月から続いている米沢市での活動は福島市からの無料送迎により継続しています。わたしは、原発事故は、今までそれに向き合ってこなかった大人のひとりひとりの責任であると考えているので、その付けを未来を担う子どもたちに負わせたくはないのです。この無料送迎を支えてくださっているのは、全国、そして外国からも贈っていただいているご支援のおかげです。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

最後になりますが、わたしに幼児教育へのきっかけを与えてくださり、常に問題提起をさせていただいた2018年12月に永眠された降矢美彌子氏に心からの謝辞を送らせていただきます。いつか先生に認められる活動にしたいと子どものように願ってきましたが、今はもうそれは叶わなくなりました。しかし、いつの日か幕の向こうで再会を果たした時、先生の笑顔を見ることができるよう、今わたしにできることを命ある限り続けていこうと思っています。



お祝いの言葉を贈ります

一般社団法人日本野外生活推進協会 代表理事 高見 豊



特定非営利活動法人青空保育たけのご創立10周年おめでとうございます。
創立10周年にあたり一言お祝いの言葉を申し上げます。

福島市で野外での保育「青空保育たけの子」を設立されて10年になるのですね。しかし、その10年の歩みは、まったく平坦な道ではなかったことと思います。

辺見さんからご連絡をいただき、私が初めてお伺いしたのは東日本大震災の翌年2012年7月14日のことで、米沢市の置賜民族資料館が会場でした。近くに川があり、グラウンドがあったのを覚えています。

第146回「森のムツレ教室リーダー養成講座」の開催がきっかけでした。本来であれば、辺見さんの本拠地である福島市で開催するはずの「森のムツレ教室リーダー養成講座」でしたが、福島第1原子力発電所の事故で福島市内での開催ができなくなったためでした。2011年から山形県米沢市へ通っての保育は、本当に大変なご苦労があったことと思います。

2度目にお伺いしたのは、2016年の秋11月10日で、第190回「森のムツレ教室リーダー養成講座」の開催のときでした。2012年の場所ではなく、開けた田畑と民家があり、近くに牛舎があったことを覚えています。フィールドは以前よりかなり広く平らで、子どもたちがのびのびと遊ぶのに適した場所で、近くに川があり養成講座の自然観察では河川敷まで行ったことを記憶しています。また、農業と生活、保育と食育を結びつけることができる、野外保育にふさわしい、新しい保育の場を見つけられたと、安堵したことを思い出しています。

10周年を迎えられるまでには本当に大変な困難があったことを思うとき、そのご努力に心より敬意を表します。

これからも、いろいろと苦難もあるだろうと思いますが、持ち前の情熱と行動力で子どもたちに寄り添い苦難を乗り越え、ご活躍いただくことを祈っております。

また、ぜひ子どもたちと楽しい森のムツレ教室を開催していただけることを願っています。

私たち(社)日本野外生活推進協会(森のムツレ協会)もできる限りのご応援をさせていただきます。改めて創立10周年おめでとうございます。特定非営利活動法人青空保育たけのご様の今後ますますの発展をお祈りいたしております。



祝 辞

公益財団法人農村文化研究所代表 遠藤 宏三



青空保育たけの子開園10周年お目出とうございます。2011年3月11日、想像を絶する「東日本大震災」そして、原発避難。未来ある子供達を守ろうと福島より米沢へ保育場所を探している方がいる。その代表の方が辺見園長でした。

当方、広井郷幼稚園は昭和34年開園以来「三つ子の魂百までも」をモットーに幼児教育を続けてきましたが、少子化の中、創立50周年を持って閉園していました。その後、置賜民族資料館として再スタートをしていたわけですが、ホールや遊具もあることから、青空保育たけの子を関係者一同賛同しお引き受け致しました。「たけの子」たちあげ早期に協力できた事うれしくもあり光栄に思います。平成26年、きな臭い世情の中、世界の「恒久平和」を願い、「戦争資料館」開設に伴い移転して頂きましたが、福島により近い上新田の地で増々の御発展、慶賀の至りです。

振り返ってみますと吾妻の山々超え、米沢に通う往復は、運転担当の志賀さんはじめ多くの方々に緊張を強いられる日々であったと思います。今日の発展は幼児教育にかける辺見さんのひたむきな信念、哲学、たゆまない多くの賛同者を得ての結果と存じます。

私も微力ですが、春には泥んこまみれの田植、夏には流しソーメン、秋には芋ほり、クリスマスには来賓もちよりでの餅つきなど手作りイベントの数々で子供達と遊ばせてもらいました。クリスマスの際はサンタ役の外人さんの怪力で臼が敷板の上でおどっていました。

草木塔発祥の地米沢、もったいない精神を育んだ霊国米沢で、地元の子供達共々自然の中での活動、命の輝きはこれからもたくましく素晴らしい子供達が巣立ってゆく事でしょう。浜田先生の言われる「強くやさしく、やさしく強く」、子供達は青空のもと大きな花を咲かせ実を結ぶと信じています。「たけの子」の増々の発展と余人をもって代え難い辺見先生、ボランティアや関係者の皆様様の健康とご活躍を祈念して10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。





祝 辞

新田営農組合代表（青空保育たけの子理事） 手塚 隆



青空保育園たけの子十周年、誠に御目出当う御座います。東日本大震災での原発からの放射能汚染で子供達が外で遊べなくなる様な状況で、福島の人達の苦労は大変だったと思います。その様な状況の中、小さな子供達に外で遊び、土とふれあい、自然の中で遊ばせたいと放射能汚染の少ない米沢に移って数年、自然の中で子供達が元気に遊んでいる風景は、本当に良いものです。私達の集落も高齢化、少子化の中、子供達が走り回ったり、虫を取ったりしながら、色々な事を学んで新しい時代を造る人材としてしっかり育ててもらいたいものです。

祝 辞

東北文教大学准教授（青空保育たけの子理事） 下村 一彦



たけの子10周年おめでとうございます。私は現在の米沢の古民家に活動拠点が移ってからたけの子を知りましたが、初めて訪問した日に、田んぼの畦道をヒメオドリコソウの蜜をひたすら吸い続けながら歩くR、手のひらサイズの毛虫をタワシみたいと言って面白いSに出会い、子どもの自己表出を可能にする里山環境とその姿を温かく見守る辺見さんの保育に感銘を覚えたことを鮮明に覚えています。その後、理事となって学生と遊具整備に携わったり、民泊・カフェ事業を応援したりと楽しく携わらせて頂いていますが、私がたけの子に出会う以前の福島から米沢への活動拠点の変更の苦労、悔しさへの寄り添いは道半ばです。

運営費がどれ程苦しくても譲れないと続けている無料送迎バスの運行を少しでも支えられればと、4年前から大学祭で園児が仕込んだ味噌の店（田楽やおにぎり）をゼミ生と出店しています。安心安全で美味しい味噌は年々評判を呼び、出店を楽しみにしている職員も増えてきており、たけの子の取り組みを知ってもらう機会としても続けていきます。

このように述べてくると、支援者の立場が強調されますが、そうではありません。たけの子の活動の中で笑顔になった子ども、保護者、スタッフ同様、自然体験の意義や食の重要性を実感することが出来た学生。そして、関わる皆さんの楽しそうな姿に保育という営みの魅力を再認識させて貰った私が支えられているのです。これからも辺見さんの甲高い笑い声、忙しい～とブスツとしながらも何だか嬉しそうな志賀棟梁、その様子を面白いがるスタッフ・理事・保護者の皆さんとの活動を楽しませて下さい。



2009 年度

2008年11月4日 プレ保育開始

2009年4月10日 第1回入会式(福島市青少年会館前庭)

2009年10月30日 第1回たけの子まつり(福島市荒川桜づつみ公園)

2010年3月19日 第1回卒会式(福島市信夫山第二展望台)



第1回卒園児
熊坂藍音

たけの子を卒園してから10年が経ち、高校1年生になりました。この10年での日本は社会の変化に伴って、学校の教育環境も変わってきています。先生の言うことを聞くだけでなく、答えのないものに取り組むことも求められています。今振り返ると、たけの子で過ごした1年間は自然の中でやりたいことを思いっきりできた年でしたが、それはクリエイティブな社会を生き抜くための土台だったのだと思います。それはさておき、たけの子で過ごした1年は本当に楽しく、一緒に遊んでふざけてくれた辺見さんやスタッフの方には感謝の気持ちでいっぱいです。また、たけの子は時代の最先端を行っていたのだと気づきました。当時は将来はおならの研究者になると辺見さんと約束しましたが、それに加えてベーシストにもなりたいです！今通っているみなさんはたくさん遊んで楽しんでください！たけの子に通えて本当に良かった！





2010年度

2010年4月8日 第2回入園式(福島市青少年会館前庭)
2010年10月30日 第2回たけの子まつり(福島市荒川桜つづみ公園)
2011年3月11日 東日本大震災発生



2011年度

2011年4月7日 避難所炊き出し開始(8月まで全19回)

2011年6月2日 kizuna 託児ルームたけの子開始(福島市鳥谷野辺見宅/~9月まで)

2011年10月3日 第3回入園式(米沢市六郷町農村文化研究所)

2011年11月5日 第3回たけの子まつり

2012年3月19日 第2回卒園式



第2回卒園児
塚本基依

僕のたけのこ幼稚園での生活の中で、最も心に残ったのは、自然とふれあう時間でした。なぜかという、今たけのこを卒業して約八年たった今では、昔には当りまえのようだった自然とのつきあいが全くなくなってしまっはじめて、たけのこでの経験がとても貴重なものだったと知ったからです。ほかにも、ながしそめんや防災訓練なども、ほかの幼稚園などに行っていたらこんな経験は絶対にできなかったの、自分は何ぐまれているなど改めて思いました。自分もたけのこ卒業生として、心も体も真っ直ぐに成長した、つよい竹を目指します。



2012年度

- 2012年4月9日 第4回入園式(米沢市六郷町農村文化研究所)
- 2012年6月23日 第1回たけの子自然学校(週末保養/後に「みっけ隊」「とがり隊」)
- 2012年9月5日 第1回すすくたけの子(未就園児親子サークル/後に「森のムッレ教室」)
- 2012年11月25日 第4回たけの子まつり
- 2012年11月27日 第1回たけの子自然教室(他園受入)
- 2013年3月17日 第3回卒園式



第3回卒園児
竹内桜子

たけのこで楽しかったのは雪が積もっている時でした。高い雪の山から、みんなでそりに乗って滑り降りたことを覚えています。スコップでも滑り、たけのこの入り口の坂が急で面白かったです。それに、隣のグラウンドに背の高さくらいの雪が積もっていて、そこでベスタに乗ったことが印象的です。いつもは乗りたくても逃げられるベスタの上に乗ることが出来て、とっても嬉しかったです。それに火で色々食べ物を焼いて食べたことも楽しかったです。ぐるぐると棒に巻いて焼くパンがおいしかったです。マシュマロを焼いて食べるのも大好きでした。今でもマシュマロは大好きで、お店で見ると食べたくなります。何年も前なので忘れてしまったし、お友達の事もよく覚えていませんが、一緒に遊んで楽しかったことは覚えています。



2013年度

2013年4月11日 進級式(第5回入園式)

2013年9月21日 第5回たけの子まつり

2014年3月23日 第4回卒園式



第4回卒園児
松本清暉

ぼくはたけのこでいろんな思いができました。自分たちで、きじをつくり棒にまき、パンをやきました。とってもおいしかったです。たけのこのキャンプでは、おにやんまがふかしたところをみることができました。このよこにある体育館で、かみひこうきをつくりとばしてきょうそうをしたりしました。まけたときはとてもくやしかったです。雪がたくさんつもったときは雪がっせんをしたりみんなでそりすべりをしたりつららをたべたりいろんなことをしました。春日井市は雪がつもらないので、このようなことができません。とってもいいけいけんをしました。大人たちがつくってくれたツリーハウスにのぼるときはいつもきうきしながらのぼりました。高いところからおろすけしきはとってもさいこうでした。ごはんを食べるときは騒ぎながらたべてはだめだということも学びました。たけのこ祭りでは、みこしをかついでたのしかったです。クリスマスではサンタさんがきました。そのときおもちつきをしていたので、サンタさんがおもちをドスンとつけてくれました。そのおもちはとってもおいしかったです。つきたてのおもちをさいきんたべていません。おもいだすと「おいしかったな～」と思います。おとうとができて、本をよむときはへんみさんが読んでくれたようによんでいます。たけのこではいろんなことを学びけいけんしました。これからもずっとつづいてほしいです。



2014 年度

2014年4月5日 第6回入園式

2014年6月21日 よねざわ冒険遊び場あそべんちゃ〜ランド開始

2014年9月20日 第6回たけの子まつり

2015年3月14日 第5回卒園式



第5回卒園児
宮崎秀亮

ぼくが通っていた「たけの子」は今と別の場所でした。ロープでできたはしごを登るツリーハウスがあった場所です。あまりおぼえていませんが、心に残っていることは、雪遊びです。雪の山を登ったことです。雪にいちご味のシロップをかけて食べたこともおぼえています。ぼくは今5年生です。アルペンスキーをがんばっています。冬休みには中学生といっしょに合宿へ行きます。たくさんれんしゅうしてスラロームの大会で、1位をとって下の学年のお手本になれるようにがんばります。



2015年度

2015年4月11日 第7回入園式(米沢市上新田)

2015年10月17日 第7回たけの子まつり

2016年3月19日 第6回卒園式

第6回卒園児
佐藤実晴



〈たけの子での思い出〉 ぼくはたけの子で、やく二年間お世話になりました。その、二年間の中で、楽しかった事の出来事を話します。春、ぼくのおたんじょう日の季節です。春はとくに、さくらがまんかいできれいです。たけの子の近くにさくらがあって、ぼくは、それを見るのが楽しみでした。たんじょう日の日には、先生が、ケーキを作ってくれて、それをみんなで食べました。夏、それはとくに虫が多い季節です。ぼくは、虫とりをいっぱいします。大カマキリ、ちょうちょう、バッタといろいろな虫をとりました。すごく仲よしなのはそら君です。たけの子の同い年で、いまでもよく遊んでいます。秋、それは木の実が多くなりこうようします。秋にはよくクルミをわってたべていました。そら君と心富とだれがもみじをいっぱいとれるかゲームもしました。冬、それは雪がふる季節です。冬といえばそりすべり。ぼくは、いつもたけの子の後ろにあるどてで、そら君と、そりすべりを楽しみました。でっかいそりでみんな乗ってすべったらすごく楽しかったです。またたけの子に行きたいです。





2016年度

- 2016年4月9日 第8回入園式
- 2016年10月16日 第8回たけの子まつり
- 2017年3月18日 第7回卒園式



第7回卒園児
加茂亜唯琉

〈たけのこのおもいで〉わたしがたけのこにかよってよかったことは「しぜんとふれあえたこと」です。ふくしまではあまり外にでてあそべなかつたので、たけのこにいてよかったです。たけのこで好きなことは、みんなでおにごっこをしたり土でなにかを作ったりすることが好きです。一番好きなのは、ハンモックと、ツリーハウスです。どっちもよそにはないものだからです。ハンモックは、みんなでのったりゆれたりして、とてもたのしかったです。ツリーハウスは、いろいろかわったりするからたのしいし、こわかったこともあります。それははしのところですよ。わたるときに下の木がおれないかどうかしんぱいになったりしたからいままでも二回から三回くらいしかいったことがありません。でもはじめてわたれたときは「わたれた」とおもってうれしかったです。わたしはたけのこにいてとてもたのしかったです、またいきたいとおもっています。





2017 年度

- 2017年4月8日 第9回入園式
- 2017年10月15日 第9回たけの子まつり
- 2017年11月11日 第1回ありがとうマルシェ
- 2018年3月17日 第8回卒園式



第8回卒園児
佐藤心富

〈たけの子でたのしかったこと〉 ツリーハウスでセミをとることがたのしかった。なつには、ちょうちよがでてきてあたまにのっておもしろかった。セミとるときなにかにさされて、なんかぷくぷくになりました。友だちや親友もできてうれしかったです。おない年もみんなともだちです。でもいえがとおくていけませんでした。たけの子でピザをたべたりしたときチーズがあつかったしおいしかったです。ぼくは、はやさかさんが大きいです。どうしてかというやさしくておもしろいからです。あと一さいか二さいからいっしょにいるからです。でも学校にいったからそんなにあわないのであいたいです。たんじょう日にみんながおいわいしてくれるのでうれしかったです。ぼくがーばんうれしかったたんじょう日は、四さいのおたんじょう日です。どうしてかというすいかのかわの中にフルーツがたくさんはいっていたからです。ぼくのなかよしはリックンとレンです。どうしてかというおない年だからです。でもやっぱりおにいちゃんが大きいです。ぼくは、またたけの子にかよいたいです。



2018年度

- 2018年4月8日 第10回入園式
- 2018年8月1日 民泊事業開始
- 2018年9月16~17日 第2回ありがとうマルシェ
- 2018年10月14日 第10回たけの子まつり
- 2019年3月24日 第9回卒園式



第9回卒園児
下山田萌々子

わたしは3さいからたけの子にはいりました。さいしょはおしがこわかったけどみんなでおしといっしょにあそんでいるうちにおしがかわいくなってきました。たけの子まつりでみりにまけたことがぐやしかった。一ばんたのしかったのはおとまりをしておかいものについてごはんをつくったことです。





謝 辞

青空保育たけの子 同窓会会長 高橋 千春



青空保育たけの子創立10周年、誠におめでとうございます。

そして、今のたけの子があるのは、ひとえに震災後全国の皆様からたくさんのご支援やご協力をいただいていたおかげだと思います。卒園児の保護者として深くお礼申し上げます。

たけの子の事は9年前に県内ニュースで知り、当時は福島市内にある信夫山を駆け巡る子供たちが映っていて、とても印象に残りました。その後原発事故となり避難生活に入って私は人生が大きく変化し、すっかりたけの子の事を忘れていました。しかし、震災から5年後福島に戻ることになった時に悩みの種だったのが、まだ年少だった長男の幼稚園先。福島市内の幼稚園を探しながらどうもしっくりこない気持ちの中で突然思い出したのが、以前ちらっと聞いたことのある米沢に移転したたけの子の存在でした。福島に戻っても避難先と変わらず土にまみれて外で思いっきり遊ばせてあげたい、その思いだけで、見学もしていないのにもうここしかない!と決めていました。それから長男は2年間、毎日バスに乗りトンネルを7つも抜け1時間かけて米沢へと通い、たけの子にお世話になることになったのです。

そんなたけの子の存在は私達を救ってくれたのですが、原発事故からここに至るまでは並大抵のことではなかったはずです。自然が一番の味方なはずの野育の幼稚園からしたら、本当に致命的だったと思います。その時の悲しみと苦悩と言ったらもう、言葉では言い表せないでしょう。しかし米沢という放射能汚染が比較的少なかった場所への移転と移動保育を決断した辺見さんは、苦渋の選択ながらも斬新であり立派だったと思います。そして10年続けて来た実績。このような園を作ってください改めて感謝の気持ちを伝えたいです。

私達の頃と違って、今は自然に触れ合う機会がぐっと減ってしまった現代の子供達。そんななか、息子も私も自然は友達という基本的な考えを改めて教えていただきました。今では小学二年生ですが、ベースにはたけの子で学んだ自然体験がありたくましく成長しています。今後ますます自然から離れていく可能性がある子供達の未来。しかし私達は自然なくしては生きられません。どうかこれからもたけの子のような幼稚園がずっと続き、子供達の心と身体を育てていただけたら、と強く願います。



たけの子 10 周年おめでとうございます

青空保育たけの子 PTA会長 加茂 亜子



わが家の子どもたちがたけの子に通い始めて4年になりました。4/10の時間を共に歩めたことを嬉しく誇りに思います。年長の二女と年少々の長男から始まったたけの子との密な関わりは、来年の卒園式で一区切りがつかます。

初めてたけの子を知ったのは、多分設立当初の事。北欧の森のようちえんや全国のプレーパークを“いいなあ”と思っていた私は、「園舎を持たず、とにかく外で過ごす」たけの子に強く惹かれました。しかし、育休明けフルタイムで仕事をしながらたけの子に預けることに自信がなく、泣く泣く諦めました。地方のフリーペーパーの記事をずっと取っておき“いいなあ”と眺めることしかできませんでした。

2011年の東日本大震災と原発事故により、新潟・山形に自主避難をした私たちは、様々な出会いの中で、震災前よりもずっと食や健康について思うことが増えました。そして、福島に帰還するタイミングで再び出会ったのがたけの子だったのです。

たけの子には素晴らしい所がたくさんあります。

- ・子どもが自分の関心に沿ってとことん遊びこめること。
- ・小さな子は大きな子に憧れ、大きな子は小さな子をいたわりリーダーシップがとれること。
- ・保護者もたくさん関わり、たけの子と一緒に作り上げていること。
- ・地域に開かれているおかげで、地域の方々にも目をかけていただけること。

そして、私が考えるたけの子の一番の良さは、自然の中で目一杯遊べること、自然と共にあることです。

いくつか印象的なエピソードをご紹介します。

息子がたけの子に入ってすぐの事。雨の中カッパを着てストライダーにまたがり、自分たちで掘った泥池のなかに膝まで浸かっている写真がメールで届いたときは衝撃を受けました。“こんなに自由に遊んでいいんだ!”と。毎日2~3セットの泥だらけの洗濯物の処理は大変でしたが、とてもとても嬉しかったです。

散歩して見つけたたんぼぼや、捕まえたザリガニや小魚はおやつになる。おかげで息子は食べられる草を覚え、エビよりザリガニがおいしいといいます。“命をいただく”事が身に染みているのです。

春に田植えをし、秋には稲刈りをし、冬には味噌を仕込む。そのお米とお味噌は冬の給食になり、稲わらはお正月のしめ縄や、卒園式の胸のブローチに変わる。土と食と手仕事繋がり循環しているたけの子の姿に、本当の贅沢とはここにあるのではと感動しました。

自然の恵みを享受させてもらっている事、それも微力ながらも自分たちの力で叶えている事、これからの貴重な経験は子どもの感性や自信を育み、大きくなってからも子どもたちを支えてくれるでしょう。こんなに素晴らしいたけの子を私は愛しています。

たけの子を作ってくださった邊見さん、スタッフの方々、そして地域の方々、本当にありがとうございます。たけの子がますます発展されることをお祈りしています。



たけの子ありがとう

青空保育たけの子 理事 大貫 友夫



たけの子保育園創立10周年おめでとう!! たけの子は福島希望のともしびだと思う。卒園児のはるき、そら、あっちゃん達と遊んでいた頃が懐かしい。60数年振りに幼児に戻り、楽しい日々を追体験することができました。あらためて、たけの子ありがとう!! 『あとからくる者のために、田畑を耕し、種を用意しておくのだ。山を川を海を綺麗にしておくのだ…。あとからあとから続くあの可愛い者たちのために、みなそれぞれ自分のできるなにかをしていくのだ』この様に生きたいものです。子ども達を大切に育てる「青空保育たけの子」にかかわることが出来て幸せでした。これから私も人生の楽園目指して人生を全うしていきたいと思えます。

祝 辞

青空保育たけの子 理事 宮崎 幸子



創立10周年おめでとうございます。たけの子にお世話になった我が子もちょうど誕生10周年でした。夢や希望を持ち、自身を愛し、意見がきちんと言える子に成長しているように思います。たけの子で学んだ“個人を尊重する心”をこれからも忘れずに見守っていこうと思います。



「持続可能な生活体験の場」がずーっと続きますように

青空保育たけの子 保育士 大貫 節子



私は通って8年目のたけの子保育、子どもたちの(A)あぶない・(K)きたない・(B)かばかしい・遊びに、日々癒されています。

ある日、小川のそばで遊んでいると、川上の方から立派なキャベツが流れてきて、子どもたちはそれを見逃すはずはありません。拾い上げママゴトのはじまり～。昔話のような光景に、思い出すとわくわくしてしまいます。その他にも、子どもたちのA・K・Bな遊びには、ホッペがほころぶことがたくさん！ 子どもたちはカエルやちょうちょ、魚をつかまえようと目をキラキラ。道ばたの石や木枝さえも宝物。手にしたらしばらく離しません。私の子ども時代のよう。

あおぞら館は、木・火・土・金・水を意識した遊び場作り。再利用を工夫してのD・I・Yがステキ。集中して遊べる空間が整ってきました。

大人たちにとっても、生活の知恵を学び合える交流の場所となりました。これからも増々賑わいますように、お祈りします。

祝 辞

青空保育たけの子 スタッフ 志賀 幸夫



青空保育たけの子十周年おめでとうございます。

私は、約六年間たけの子のスタッフとして従事しております。たけの子の保育を見ていると山や川そして畑で野菜を育てて食べる。まるで私が子供の頃にしていた遊びや手伝いがそのまま保育の中でおこなわれている事には驚きました。

たけの子にしか出来ない体験や経験が有ります。そんなたけの子がいつまでも続いて行く事を願うばかりです。



祝 辞

青空保育たけの子 保育主任 早坂 俊子



たけの子に勤めて7年。あっという間の7年でした。はじめは、たけの子の保育方針が分からず戸惑いながらの保育でしたが、だんだん分かってきたことは、たけの子の保育は、自然の中での遊びを通して、自分で考えること。当時私は子どもたちには無理なのでは?と思っていたのですが気が付くと子どもたちは自分で考え、自分たちで解決していく力を培っていました。これはすごいことです。

以前、ラジオの番組で自然の中で遊ぶことは、想像力・手先の器用さ・物事の道理・体力・仲間関係が身につくという話を聞き共感しました。まさしくその通りです。

自然の中で遊ぶことで、子どもたちがちょっとした困難にもめげることなく、たくましく成長していることにうれしく思います。自分も日々の保育で子どもたちのパワーに負けず頑張りたいと思います。

たけの子10周年を迎え、たけの子がますます発展する様心からお祈り申し上げます。

祝 辞

青空保育たけの子 保育補助 曾根 裕子



10周年おめでとうございます。自然に親しみ、四季の行事を大切にして、雨が降っても、雪が降っても外遊びしているたけの子の子ども達。素敵な笑顔、その瞳の輝きにエネルギーをいっぱい貰っています。

祝 辞

青空保育たけの子 スタッフ 関 久雄



たけの子は福島だけでなく、日本の希望の一つです。雨でも雪でも、外で、自分で考えて感じて遊ぶ子どもたち。きっとたくさんのことを学んでいることでしょう。ほんとはね、ぼくも小さい時はそうだったんだ。今はね、めずらしくなった子どもがたけの子にいて、その子たちが世の中を変えていく、そんな気がしている。



たけの子

青空保育たけの子 事務局（副理事） 長沢 尚未



「福島市から米沢市まで移動して野外保育をしています」

この言葉を代表の辺見さんから聞いたときは、移動する保育園なんてあるのかと大変驚きました。震災後、当時二歳の息子と山形市に住んでいた私は実家がある福島への帰還を悩んでいました。福島では、線量が高くて外遊びが不安、洗濯物を外に干せない、泥んこになって遊べない。理解ある友達は震災後、全国へ引っ越してしまっただ。放射能に不安なママ友は少数派。そんな時に出会ったのは、福島から隣県の山形まで移動保育をしているたけの子でした。そんな保育園は他にない、福島で子育てするには不安がある。何よりたけの子の発想が面白いと思い、即入園を決めました。米沢市の自然の中でのびのびと遊ぶことができるたけの子があったから、福島市への帰還を決めることが出来たのです。

平日毎日、片道一時間も運行される移動保育もありがたかったです。それだけでなく雨でも雪でも野外で遊び人として大切な五感と生きる力を育み、共に成長するという理念に魅力を感じていました。小石や葉っぱを毎日持ち帰り、服も靴下も泥だらけ、無農薬の野菜を土から育て、豆も麴も手作りの味噌を作り、異年齢の友達との関わり、自分で火起こしから包丁を使い給食作り、大人並みの山登りに冬でも川遊び、木を登っても怒られない、普通の保育園では絶対に経験できない体験をさせて頂き、親子共に成長することができ大変感謝しています。

息子が小学校に入学する前の就学時検診では、担当の先生にこの色は何かと聞かれ、緑は葉っぱの色、赤は炎の色と自然の色を答えたそうです。

「お母さん、この子は色の名前が分からないようです。通級が必要です。」

私は息子に色なんて教えたことがありません。いったい誰が赤は赤でなければならぬと決めたのでしょうか。答えなんて無限にあるはずで。型にはまらない子は排除されなければならないのでしょうか。たけの子で日々、自然の中で遊んで彼なりに感じた答えを聞いて私は誇らしく思いました。内向的な彼が、自分の力で考え、自分の意思で考えを伝えることができたのです。

たけの子に、保護者として、理事として、スタッフの事務局として、こうでなくてはならないという概念にとらわれない場が居心地よく、七年近く関わらせていただきました。

この経験は私の人生の中で宝ものです。何より震災後から今まで全国からたくさんの方にご支援をいただき、皆様のおかげで十周年を迎えることができました。ここまで長く活動を続けてこられたことに、本当に感謝しています。たけの子がこれからも二十年、三十年と未長く活動が続いていけるよう願っています。



「青空保育たけの子学園」 10周年おめでとうございます

地域の方 細谷 洋一

私が3年前に初めて訪問した時は、「えっ!ここって保育園なの・・・?」と驚きました。普通の農家に沢山の皆さんが集まってワイワイガヤガヤと、何やらお祭りをしている様子でした。

初めての経験で、ウロウロしながら回っていますと、大きなピザガマで、ピザを焼き、家の中では、手作りの手芸品などが並ぶお店が沢山出ていました。

そうだったのですね〜♪その日は学園の年に一度のお祭りだったのです。

私も絵本読みと言う事で、伺わせて頂き、紙芝居、絵本を読ませてもらいましたが、あまり聴いてくれるお子さんもいなかったもので、早めに帰らせてもらいました。

第一印象は、ただ驚きだけでしたが、2回、3回と通ううちに、学園のことが少しずつわかるようになり、そして「う〜む。」「なるほど」と首を縦に、頷く回数が多くなってきました。

3/11 原発災害により、行き場を失った福島のお子さんを、身を粉にして奮闘され守っている辺見園長のお姿も理解できるようになり、スタッフの皆さんの献身的な奉仕にも賛同し、私も及ばずながら、老骨鞭打ち、ボランティアとして参加させていただく事にしました。

あれから3年一。卒園の子とは2回別れを経験し、新しい子達との出会いにも、楽しみを感じ、一カ月に数回程度ですが、絵本読みや、節分の鬼役などしながら、園児達との交流をしています。

私も日一日と体力が老いてきている身…。あと何年続けられるか不安ですが、園児達が「たけのこじいじ」と笑顔で迎え入れてくれる限り、楽しい交流を続けたいと思っています。

地域の方 星 啓一郎

これからも、長く続けて下さい。(楽しく行きましょう)

地域の方 水野 かをり

おめでとうございます。皆さんと“ものづくり”陶芸を通じ、キラキラした目、思いがけない想像力、私の方が楽しみになりました。これは、私の一生の宝物になりました。これからもお互い頑張りましょう!!

興道東部保育園 藤戸 孝司

創立10周年おめでとうございます。青空保育たけの子様の保育姿勢、子どもが豊かに遊び活動できる環境づくりに学ばせて頂いております。これからも、子どもたちが、たったひとりのかけがえのない人間として笑顔で健やかに過ごせる日々と一緒に作っていきましょう!

興道南部保育園 佐藤 和子

創立10周年おめでとうございます。たけの子で過ごされたお子さん方が自然の中での実体験を通して、豊かな経験と柔軟な心と体を育まれていること、そして、子ども軸に見守られている先生方の続ける思いのすばらしさを痛感いたします。



わんぱくクラブ 名取 雅幸

10周年おめでとうございます。「素晴らしい活動」を推進する皆様の“お力”に敬服いたします。今後の益々の発展を陰ながら応援させて頂きたいと思っております。どうぞ、頑張ってください。

葉っぱ塾 八木 文明

創造的、先進的な取り組みが、長く続けられてゆくことを心から願っております。

NPO法人フードバンク山形 増田 勇一

創立10周年記念、誠におめでとうございます。貴法人の益々のご発展をお祈り申し上げます。今後共宜しくお願い致します。

小平神明幼稚園 宮崎 和美

青空保育たけの子10周年おめでとうございます。震災をはさんで切り拓いてこられた皆様のご努力に拍手を送ります。目の前の子ども達の幸せを第一に考えてこられたこと、「条件は変革し創るもの」といったエネルギーに感服します。

**NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟 副理事
NPO法人国際自然大学校 理事 藁谷 久雄**

10周年おめでとうございます。さまざまな困難を乗り越え、いつも新しい事に前向きな辺見さん、これからも子どもたちのために更なる活躍を祈念します。

支援者 秋山 ちづる

ごくささやかな応援しかできないのですが、これからも関わらせて頂けたらうれしいです。

支援者 荻野 雅世

10周年おめでとうございます。記念講演とてもききたいのですが、遠いのです、残念—

支援者 齊藤 栄一

青空保育たけの子のご活躍を願っております。

支援者 鈴木 淳子

10周年おめでとうございます。これからも頑張ってください。

支援者 高橋 靖子

創立10周年誠におめでとうございます。年に一度お箏を通しての交流、いつも楽しみにしております。まっすぐな子供達のためにたけの子の目ざす教育方針が間違いないものと確信しています。ますますの発展をお祈りいたします。





支援者 永井 史子

10周年おめでとうございます。ごぶさたしております。いつもフェイスブックでご活躍の様子を拝見しております。10年長きに渡りご努力を継続されていること、心から素晴らしいと思います。益々の発展を祈ります。

支援者 中能 孝則

創立10周年本当におめでとうございます。皆様本当によく頑張りましたね。次になうこどもたちのために、ひき続きよろしく願っています。「たゆまざる歩みおそろしカタツムリ」の心いきでヨロシク!!

支援者 名出 真一

残念ながら参加できませんが、成功をお祈りしています。

支援者 奈良 淳子

10周年おめでとうございます。たけのこさんの子どもたち のびのび生き生きしています。こんな保育所があたり前になる日が来るといいです。

支援者 箱木 眞澄・禮子

私達2人は共にハンガリーのブタペストに約6週間滞在して、同国の音楽に関心を持っています。それ以外の欧米の音楽にも関心を持っています。この関連で降矢先生のコダーイ音楽にも関心を持っていました。

支援者 早坂 牧子

たけの子にお世話になった孫も中1になりました。普段は孫とも疎遠になっておりますが、たまに親子の生活をかい間見て、たけの子の心が親子の生活の中に生きていると思っております。お世話になりました。

支援者 細江 卓朗

青空保育たけの子創立10周年誠にありがとうございます。これからも子ども達の為に素敵な活動を続けて下さい。

支援者 吉田 寛丸・うらら

10周年おめでとうございます。福島でも北海道でも子供達が自然と共にのびのびと育つこと、そして私達が自然から学んで、自然と共生する暮らしにシフトすることが未来への希望だと思います。アイヌの方々が、自然と共に生きたこの地で私達も学びます。たけの子の子供達、自然の中でのびのび遊んでネ!

支援者 渡辺 一枝

10周年、おめでとうございます。ここまで続けてこられた御努力に100万遍の拍手を送ります。そしてまた、これからを続けていかれるご意向に100万遍のエールを送ります。子どもらよ健やかに育て!!

支援者 渡辺 雅宏

創立10周年おめでとうございます。これからも頑張ってください。



保護者 加藤 樹子

たけの子保育園を利用させていただいて、1年とちょっとですが、自然とふれあいながら、学ぶことがたくさんあり、親子共々、楽しませていただいています。上の子は来年入学なので、残り少ない保育園生活、おもいっきり遊んでほしいと思います。

保護者 下山田 菜穂子

子供たちの大切な幼少期を、自然いっぱいなたけの子で過ごすことができ本当に良かったです。これからもたけの子卒園児が、どんどん増えますように！

元在園児保護者 掃部 千鶴

大震災の前後に親子で活動に参加させていただきました。その後もたけの子さんでの過ごし方がベースとなりました。お会いしていた期間は短かったですが、これまでたくさんのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

元在園児保護者 恵花 京子

たけの子創立10周年おめでとうございます。自然の中で元気いっぱい豊かな心を育ててくださいね。



卒園児保護者 小原 舞

創立10周年おめでとうございます。先生方、地域の方々子ども達を想う気持ちが絶えることなく続いてきたおかげで、10年という長い期間「たけの子」が在り、そこに在籍できたのだと思います。貴重な体験が出来たことは親子で宝物の様な思い出です。心から感謝しています。これからも心身を使って自然からの学びを享受できる子ども達が増え続けることを願っています。

卒園児保護者 竹内 桃子

あの、リビングに載っていた たけの子の案内、そのワクワクを思い出しました。10年…あっという間なような、でもずい分前のことに感じます。たけの子での時間は、子供はその子自身に向き合えばその自身として成長していく、「こども①」ではなく「桜子」としてしっかり関わっていただきました。10周年おめでとうございます！！

元在園児 井上 智詠

10周年記念おめでとうございます！ たけのこでの思い出は、たくさんあります。果物狩りをしたり、ねじりパンを作ったり、ゴルフをしたり、雨の中お散歩に行ったり。どれも楽しかったです(へへ) これからもがんばってください！



たけのこ保育園の子ども達と過ごした事

旧職員 熊田 悦子

仕事を探していた私は、行く途中でトイレを借りるのに保健センターに入った所、掲示板で、たけのこ保育園ボランティア募集のチラシを見て、すぐに電話しました。

米沢は、私が高校卒業後、米沢の松ヶ崎自動車学校で免許を取得したり、山形に友人がいたり縁のある所です。学校からいただいた免許証の赤い革のケース今でも大事に使っています。

翌日、さくらづつみ公園近くのコンビニの駐車場で待ち合わせて、優しい笑顔の辺見さんの笑顔がとても印象的でした。公園の駐車場で保育園のバスに乗り、運転手は志賀さんです。志賀さんは明るく元気よく「おはようございます。」とあいさつが返ってきます。庭坂からは、そうすけ君が乗ります。いつもおばあちゃんとおじいちゃんが、それはそれは大切にだっこしてバスの席に乗せてあげます。春の季節だったので、「白いのが梨花だよ。桃の花よ。きれいだね。」と言うと静かにうれしそうに窓の外を見ている男の子でした。

十六沼公園からは、なっちゃんが乗ります。なっちゃんは、ふとんからすぐに起きて来るのかなと思う位眠そうにしている時もありました。ぬか漬けのたくあん作りの時、小さな手で、ぬかと塩を一生懸命まぜていたね。

バスの中では辺見さんが絵本を両手で上にあげて、みんなに見えるように、大きな声で読んであげると子供達は絵本に夢中になり、お絵描きしたり、歌を歌ったり、まだ小さいのですが、お母さんから離れても大丈夫と思って少しずつ成長していくものだと感じました。

米沢のたけの子保育園に着くと、さね君がバスの来るのを待っていて「おはようございます。」とバスの扉の前で元気よく待っていてくれました。冬は、雪が多いので近所の人が保育園まで行く細い道を除雪してくれているので、とても助かりました。

私は、真白な冬景色が好きです。一番印象に残っている事は、保育園の回りが真白い雪一面に広がり、道路、川原まで雪がつながり、朝日の光がさしこみ、きらきら光ります。ある日、子供達と歩いて行く事になりました。小さい子供達なので、大丈夫かなと心配しますが、みんな私と同じ位うれしくて、小さな体、短い足で一生懸命歩いていました。あんなきれいな景色を見たのは、20代の頃スキー場で見た白銀の世界以来で、とても感動しました。子供達も一生忘れないのではないかと思います。

あれから数年たち、子供達も小学生になっています。たけのこ保育園は少人数ですが、友達もたくさんできて思いやりのある優しい子に成長していることと思います。



旧職員 広沢 久美子

青空保育たけの子10周年おめでとうございます。振り返ってみると、10年以上も前にさかのぼるのですね。「森のようちえん」にあこがれ、もう一度保育をやりたいと思っていた時、たけの子との出会いがありました。『こどもの時間』を自主上映するために、スタッフのみなさんの主体的なパワーに圧倒されたのを覚えています。荒川、信夫山、小鳥の森、青少年会館や公園に行き、四季を共に感じ、様々な自然体験をしました。木登りをしたり、川を渡ったり、雨の中をカッパを着て遊んだり、ワクワクドキドキの日々でした。

自然の中での子どもたちは、与えられるものではなく、木の枝、木の実、石だったり、自分の宝物を見つける喜びに満ちていたように思います。

原発事故、自然災害、不安が多い子どもをとりまく環境ですが、より一層、かけがえのない幼児期の自然体験が必要だと感じています。

たけの子 10周年に寄せて

旧職員 望月 かおり

「たけの子」創立10周年おめでとうございます。

私が縁あって「たけの子」の活動に携わったのは、ちょうど震災後に活動拠点を福島から米沢へと移して手探りで野外保育活動をしていた短いけれど、内容の濃い約2年間でした。

初めて米沢に見学を訪れた日は雪が地面に残る寒い日、出迎えてくれた園長の辺見さんと三人の園児は元気に外を走り

回って鬼ごっこやかくれんぼ、木登りなどをして遊んでいました。個人的な意見ですが、思えば当時、原発事故による放射能汚染の影響で健康被害を懸念し外で走り回る子どもの姿は珍しく、何となくもよもよとした気持ちと少し霞んで見えていたあたりまえの景色を一変させる光景でした。

それからというもの、片道50kmの道のりを約1時間かけて通うことから一日が始まり、米沢の豊かな自然の中で些細な会話のやりとりから～遊び、冒険、発見、学び、ケンカ、食事……。春はたんぼぼの天ぶら、夏は川(水)遊びにキャンプ、秋はたけの子まつり、冬は雪遊び……。普段の生活を季節の移ろいととも実感できる喜びとその体験&経験を通してそれぞれに各々のスピードで成長していく子どもたちとのたくさんの思い出エピソードはつきません。

これもつねにアンテナを張り、試行錯誤しながら「子ども達が自然の中で豊かに遊び活動し、人として大切な五感をみがき生きる力を育みその子らしく成長していくことを見守り、その子どもたちを取り巻く大人も子どもも共に成長することのできる地域社会の実現に寄与する」を目指して活動する園長の辺見さんと振り回されつつも(結果、楽しんでしまう?)頼もしく支えてくれるスタッフとそこに賛同して集まる皆さんの思いと行動力の賜物です。

おかげで私にとっても「たけの子」を通して自然豊かで歴史ある米沢が観光で訪れる場所から第二の故郷のような温かい場所となりました。この夏の終わりにはさらに地域に根ざしたカフェもオープンされたそうですね。地域にしっかりと根を張り、今後とも「たけの子」が15年20年と続きますよう益々の発展をお祈りしています。

【活動拠点の変遷】

2009年4月～2011年9月
福島市鳥谷野(辺見宅)



2011年10月～2015年3月
米沢市六郷町

2015年4月～2019年現在
米沢市上新田



特定非営利活動法人 青空保育たけの子
創立10周年記念誌

ぼくらはたけの子

発行日：令和元年11月30日

発行：特定非営利活動法人 青空保育たけの子

事務所：福島県福島市郷野目字金込町8番地

活動地：山形県米沢市上新田 1166

TEL：070-1143-1166